

気づきの向こう側

平成30年9月5日(水)
自問清掃通信 第4号

平成18年6月6日は何の日でしょう？

この日は、自問清掃記念日(本校で自問清掃が始まった日)です。いつ頃から本校の自問清掃が始まったのかを、残っている自問清掃の資料から調べてみました。

本校の自問清掃の歴史について調べようと思ったきっかけは、昨年3年生の高校入試に備えた面接練習のとき、「弥富北中学校の特徴ある活動を教えてください」という質問に対し、「自問清掃です」と答える生徒が多くいたからです。本校の伝統として定着した感のある「自問清掃」ですが、始まってから12年目を迎えることになります。この12年を「12年も」と考えるか「12年しか」と考えるかは個人により違いがあるかもしれませんね。その資料を詳しく読んでいくと・・・。

始める前、平成18年の4月から5月の間に、職員会議等で熱心な議論が繰り広げられています。「そんな清掃やっても無駄だ」「かえって学校が汚くなる」等の意見もあったようです。それでも、生徒を一人の人間として成長させる清掃であると考え、なんとか実施することができました。それが、平成18年6月6日です。

始めた当時は、今のように誰もしゃべらない状況ではなく、あちこちで話し声が聞こえたようです。そんなとき「座り」という指導をしていました。これは、おしゃべりしている生徒がいたら、清掃の邪魔にならないところに座らせ、心が鎮まったら自問清掃に入るよう指導するという方法です。(現在、このような状況は見たことはありませんが)

また、その当時生徒を指導する立場にある先生方の苦悩が、質問事項からうかがい知れます。例えば、

- 清掃に集中できていない生徒を見かけたとき、「信じて待つ」「肩に手を置いて座らせる」・・・迷いながら結局何もできないことがあります。どうすれば良いのでしょうか。
- 「ほめない」ことについてですが、自問の考え方の上では分かっても、教育的対応としてとらえた場合、「ほめない」ことに違和感があります。(同意見が多数ありました)

こうして、先生たちも自問しながら12年が経過しています。私は、「まだ12年」と考えています。それは、この15分間の積み重ねが、生徒の成長にとってとても大きく影響していることを、この目で間近に見ているからです。自問清掃は気づきの清掃です。だからこそ、生徒の皆さんがさらに良くしていくために気づき、発展させてほしいと願っています。もちろん先生たちも考えます。先生たちにとっても自問清掃ですから。



(文責：小島基生)